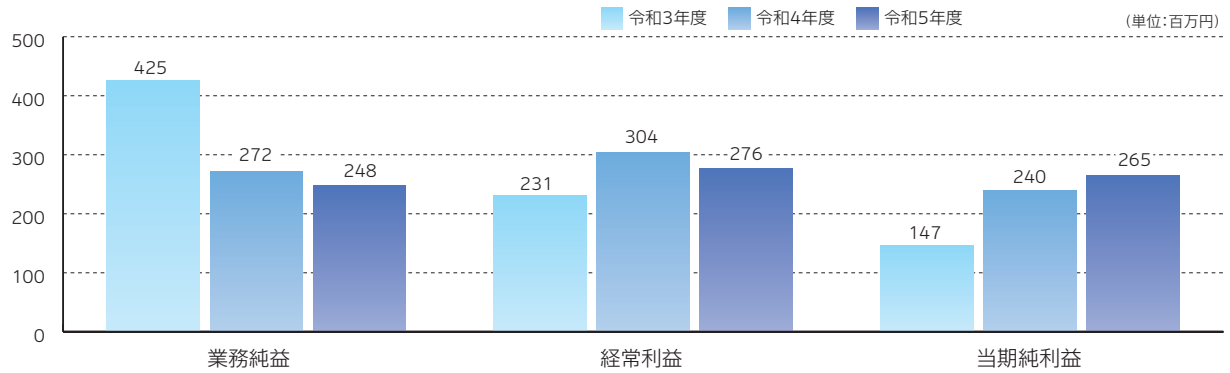
お客さまに安心してご利用いただくため健全な経営・収益力の強化に努めます

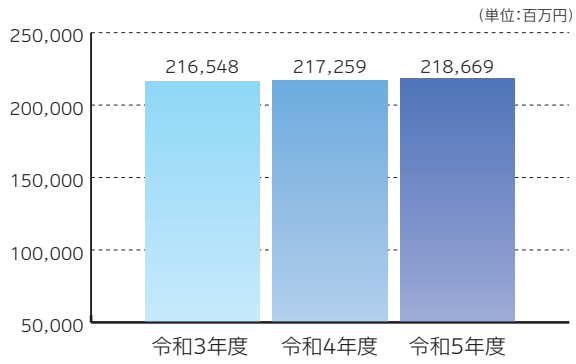
令和5年度の業績概要

預金は前年度比0.64%増加の218,669百万円、貸出金は前年度比0.88%減少の92,607百万円となりました。一方収益面では、諸経費の増加によって業務純益が前年度比24百万円減少の248百万円となり経常利益が27百万減少の276百万円となりましたが、支払税金の減少と税効果会計における法人税等調整があったことから当期純利益は前年度比25百万円増加の265百万円となりました。

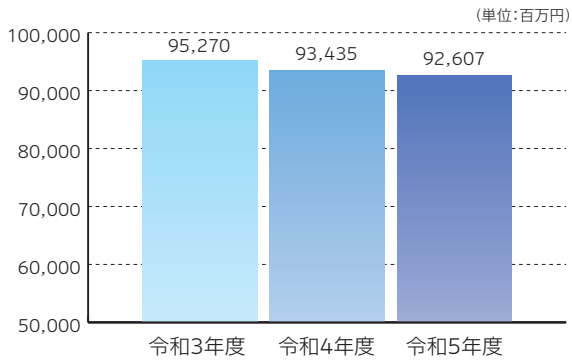
過去３ヵ年の推移　業務純益、経常利益、当期純利益



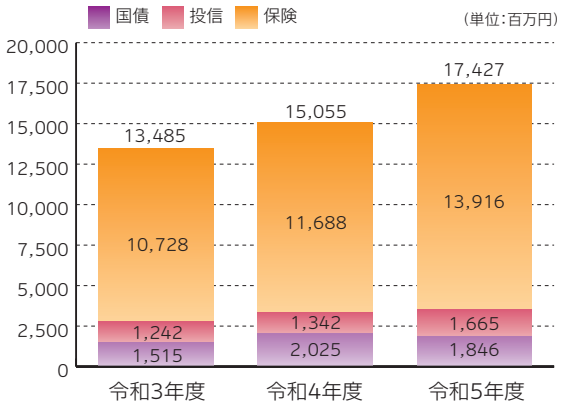
過去３ヵ年の推移　預金残高

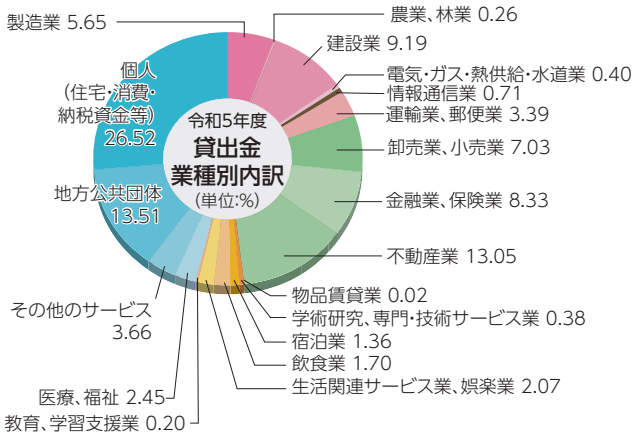


過去３ヵ年の推移　貸出金残高



預かり資産残高（国債、投信、保険）





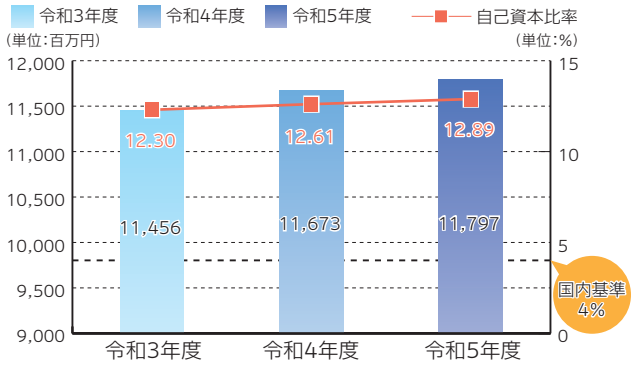
自己資本額・自己資本の状況

自己資本比率は、金融機関が保有する資産に占める自己資本の割合であり、経営の健全性を示す最も重要な指標です。

自己資本は、会員の皆さまからの出資金と、創業以来積み上げてきた利益金などの合計で、リスク・アセットは各資産の回収の危険度合（リスク・ウエイト）により算出しています。

令和5年度の自己資本比率は前年度比0.28ポイント上昇の12.89%となり、自己資本比率の国内基準であります4%を大きく上回っております。

自己資本額・自己資本比率の推移



不良債権に関する状況

当金庫は、資産の健全性確保を目指し、不良債権処理に対して厳格な資産査定を実施し、適正な償却・引当を行っています。令和5年度の不良債権比率は4.69%、保全率は92.73%であり、備えは万全です。

■信用金庫法開示債権及び金融再生法開示債権

(単位：百万円)

債権区分		開示残高（a）	保全額（b）	担保・保証等による回収見込額（c）	貸倒引当金（d）	保全率（b）/（a）	引当率（d)/(a－c）
破産更生債権及びこれらに準ずる債権		303	303	269	34	100.00%	100.00%
危険債権		3,926	3,654	3,053	601	93.09%	68.91%
要管理債権		136	90	85	4	66.19%	9.31%
	三月以上延滞債権	84	78	78	0	92.90%	9.31%
	貸出条件緩和債権	51	11	7	4	22.58%	9.31%
小計（A）		4,366	4,048	3,408	640	92.73%	66.87%
正常債権（B）		88,636					
総与信残高（A）＋（B）		93,002					

■破産更生債権及びこれらに準ずる債権は、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

■危険債権は、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。

■要管理債権は、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額です。

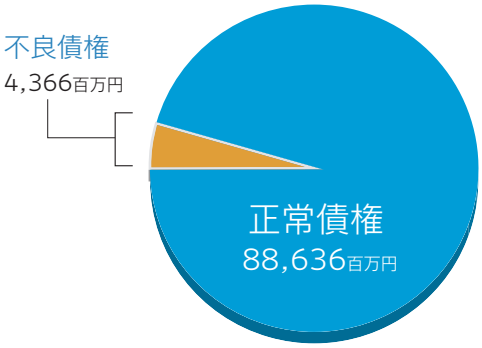
■三月以上延滞債権は、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当しない貸出金です。

■貸出条件緩和債権は、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「三月以上延滞債権」に該当しない貸出金です。

■不良債権　4,366百万円

■不良債権に対する保全額　4,048百万円

■自己資本額　11,797百万円



不良債権の非保全額 317百万円に対し充分な自己資本を保有しております